

## 今日の後悔は明日の航海へ

第5期生 飯島 崇志

私には、日々を生活していく上で目標としていることがあります。それは、「何事においても後悔をしないように生きる」という目標です。とても単純明解な目標かもしれませんが、実際のところ、これを達成することはとても難しく、ほぼ不可能なのではないかとさえも思います。

小野ゼミに入って2年、案の定、ゼミでの活動は後悔の連続でした。3年の前期、毎週日曜の深夜、文献レポートとSASレポートに追われている時、「毎日コツコツとやっていれば、徹夜なんかしないで済んだはずなのに……。」という後悔。ゼミの日、ディベートやケースの発表15分前、なんとか間に合わせた突っ込みどころ満載のレジュメを印刷している時、「昨日調子によって焼肉なんか行かなければ、もっといいレジュメが作れたのに……。」という後悔。論文チームでの集まり、準備不足で話が全く前に進まなかった時、「今日は集まらないで、個人ワークにした方がよかったんじゃないか……。」という後悔。夏ケース、夏合宿まであと1週間、テーマすらしっかり決まっていない時、「格好つけて自ら立候補した、あの時の自分を殺したい……。」という後悔。卒論締め切りが迫る12月、夏合宿以来更新されていないwordファイルを開いた時、「この2ヶ月間、自分は何をしていたんだろう……。」という後悔。この2年間、思い出しきれないくらい後悔をしたと思います。そもそも、「小野ゼミに入っていなければ……。」って？ いえいえ、そんな後悔は常に心にあっただかもしれません……笑。

しかし、振り返ってみれば、この2年間の後悔は単なる後悔ではなかったんだなと感じています。なぜならば、この2年間、いろいろな後悔はしつつも常に何らかのタスクをこなし、様々な成果を生み出すことができたからです。よく言われていることかもしれませんが、「やらないで後悔するより、やって後悔した方がいい。」という言葉があります。小野ゼミに入っていなければ、レポートも、ケースやディベートも、論文チームも、夏ケースも、卒論も、何もかも経験することなく、ただ過ぎる日々に一喜一憂し、つまらない後悔をしていたでしょう。小野ゼミに入っていなければ、徹夜でレポートや論文を添削して下さる先生、朝から晩まで熱い議論を交わす仲間、その後ホールへ繰り出す仲間……笑、こんなに素晴らしい人々に出会っていなかったでしょう。

そして今、社会を目の前にして。大きな期待とともに当然不安もあります。苦しくなった時には、先生、先輩・後輩、同期の力を借りるかもしれません。しかし、小野ゼミでの2年間、後悔を経て得た成果を持って、社会という広大な海への航海を成功させたいと思います。



2007年度ソフトボール大会にて（著者は2列目中央）